
とある破壊者の切り札

社禄芳児

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある破壊者の切り札

【Nコード】

N4371V

【作者名】

社禄芳児

【あらすじ】

魔術と科学が交差した物語が終焉をむかえて10年の月日が経った。

インデックスは故郷へ帰り、幻想殺しこと上条当麻は学園都市で私立探偵事務所を開業し、恋人である御坂美琴と同棲生活を送っていた。全てが終わり、平穏な日々が続く。誰もがそう思った……。

そんな、平和な日常にガイアメモリの影が迫る時、幻想殺しが再び立ち上がる……！！

切り札を司る仮面の戦士《仮面ライダージョーカー》、ここに誕生……！

「この幻想《悪夢》は必ず俺がぶち壊す……！変身……！」

何年も前の夏休み。一人の少年と少女が公園の砂場で遊んでいた。
。。。

少年は不幸を呼び寄せる者だという理由だけで、家族以外の者に
阻害されていた。そう、少女は少年にとって、唯一のトモダチだっ
た。。。。

少女とは昨日出会ったばかりで、夏休みを利用してちょっとした
小旅行として、この街に来た。そう、少女とは限られた日々の中で
しか遊べないのだ。。。。

少年はずっとこんな時間が続いて欲しいと思っていた。少女がい
なくなれば、また孤独な日常に逆戻りしてしまうから。。。。。
だから、一秒でも多く少女と遊ぼう、そう思っていたのに。。。。。

「ねえ、何を作る？」

「お城を作ろう！！」

そんなほのぼのとした会話が交じあわせられていた時、そんな平和
な風景と不釣りあいな男が砂場へ近付いて来た。

男は目を血走らせながら、少年の近くに立つと、懐からUSBメモ
リーののような物を取り出し、自らの額に押し付けた。

『Mantis!!』

メモリーからそんな声が発せられると、男は螳螂に似た怪人へと変
貌した。怪人は腕に付いた大鎌で少年を弾きとばし、少年に歩み寄
り再度斬りつけようとした。

少年は死を覚悟し目を閉じた。

しかし、いつまで経っても斬撃が来ない。恐る恐る目を開けると、そこには……

髑髏の様な顔をした戦士が怪人の大鎌を素手で受け止めていた。

「ガキに手え出すなんて、ちとばかり卑怯じゃねえか？」

『Maximum Drive』

「さあ、お前の罪を数えろ」

そう呟き、怪人に跳び蹴りを放った。

怪人は爆発炎上し、異形の姿から人間の姿に戻った。

少年は、怪人が倒されるのを見届けたあと、少女方を見た。腰を抜かしていたが怪我はしていないようだった。少女の安全を確認した後、少年の意識は暗闇の中に沈んでいった……………。

これが、少年《上条当麻》と少女《御坂美琴》が初めて仮面ライダーとドーパントに遭遇したときの記憶である。

Episode・1 Jの記憶 / 学園都市の探偵（前書き）

学園都市 - 都市の人口の約8割が学生という風変わった街

その街の裏路地を一人の少年が駆けていた。

「ハア、ハア……。」

少年は時折後ろを振り返りながら走っていた。

「逃げ切ったか……？」

そう言い前を見ると……。

血のように赤い眼光が光っていた……。

「ウガアアアアアッ!!!!」

Episode・1 Jの記憶 / 学園都市の探偵

学園都市第7学区には、軽鴨ビリヤードという名のビリヤード場があった。その二階に『上条探偵事務所』があった。

『上条探偵事務所』 - そこらへんの探偵事務所とは違いこの事務所は能力者が起こした事件及びドーパント関係の事件が専門であった。

事務所内ではビリヤード場の店主兼事務所所長である上条当麻が机にもたれながら爆睡中。この男、昨夜酔っぱらった同棲者である御坂美琴に散々からまれ、一睡もしていないのである。しかしこの男の不幸体質は彼を安眠させてはくれはなかった。

ジリリリン。時代遅れである黒電話が鳴り響く。

「ふあい…。こちら上条探偵事務所…。」

寝ぼけまなこで電話に応答する。聞き取れたのは、威厳のある声で第7学区で事件がどうのこうのという事だけだった。

さあ、仕事の始まりだ。

第7学区のとある裏路地。そこには一人のスキルアウトの死体と3人の風紀委員がいた。1人は緋色のロングヘアが特徴の少女エルザ・スカーレット、他の2人は燃えるように赤いツンツン頭がトレードマークのナツ・ドラグル、黒いツンツン頭のグレイ・フルバスター。何故かケンカしている。そこにオートバイが止まる、降り立ったのは上条当麻であった。

「ワリイ、遅くなった。」

「そんなことはどうでも良い。それよりこの死体、どう思う?」

「うーん、見た感じ惨いといしか言いようがないな。コイツの身元は

？」

「漆島悠樹、16歳。婦女暴行の疑いがかけられていたから、手籠めにされた女能力者の復讐じゃねえの？」

ナツは復讐殺人と決め付けている。この少年情が深いのだが、あいてがあいてなので同情心がまったく見えない。

「おい、ナツ。早急に決め付けてんじゃねえよ。」

ケンカ友達であるグレイが反論する。

「んだとつ、コラー!!!!」

「やんのか、ボケー!!!!」

早速ケンカが始まる。

「貴様はどう思う？」

エルザは馬鹿2人を無視し上条に質問する。

「ナツの意見も一理あるが、昔はやった無能力者狩りかもしれねえし……。」

上条が考え込んでいると何かがぶつかった。ふりかえってみるとそこには花束を持った少年が立っていた。

「貴様、ここは関係者以外立ち入り禁止だ。」

そついわれた少年はビクビクしながら

「すみません、ちょっと墓参りしにきなんですう。」

「墓参り？」

「半年前、妹がここで殺されたんです。」

「そうか。しかし、貴様だけ特別扱いすることはできん。ここから立ち去れ。」

「はい、わかりました……。」

少年はそう言うとトボトボ帰っていった。

上条は何故かその少年に違和感を感じていた……………。

つづく

Episode・1 Jの記憶 / 学園都市の探偵（後書き）

The next episode is

小学校の校舎を破壊するビーストドールパント。

「ウガアアアアアッ！！！！」

ビーストドールパントと対峙する上条。

「そのふざけた幻想、この俺がぶち壊す！！変身！！！」

仮面ライダージオーカーに変身する上条

coming soon..... maybe

Jの記憶／学園都市の仮面ライダー

探偵・上条当麻は膨大な資料を前にしていた。ちなみにこの資料、ここ数日漆島悠樹を含め無能力者が襲われる事件が4件と無能力者の通う小学校の襲撃事件の3件について書かれている。

「はあ〜。」

上条は大きなため息をつく、カエルのストラップがついているわりと丈夫な携帯電話を取り出すと誰かに電話をかけた。

場所は変わってとある病院の小児病棟。一人の女性が休憩室でコーヒーを飲んでいた。

彼女の名は『御坂美琴』、上条の同棲相手、学園都市の第3位、元常磐台の超電磁砲。今はこの病院の若き小児科医。

コーヒーの残りを飲み干し、ため息をつく、唐突に彼女の携帯電話が鳴った。

「はい、もしもし。」

電話にでると電話の主は…

「おう、美琴。俺だ。」

愛しの上条^{ダリン}からだった。

「な、何？」

久々のデートのお誘いかと思いきや

「調べて欲しいことがある。」

沈黙……………。

「わかったわよ。今から地球の本棚のアクセスするから。」

そういった後、美琴の視界が真っ白になり周りが大量の本棚に囲まれる。

「じゃあ、キーワードを言って。」

「OK、まずは『無能力者襲撃事件事件』、『被害者』。」
本棚の量が減っていく。

「他には？」

「『婦女暴行』、『被害女性』、そして『兄』。」
本棚が減っていく一冊だけが残る。

「データー見つけたわよ。田山浩一郎（16）。妹が婦女暴行に
い、自殺。そして、」

「ビーストメモリの購入者。」

「分かった、ありがとな。」

上条はそう言っていると電話をきった。

ここは無能力者の通うとある小学校。その前に一人の少年・田山
浩一郎がたっていた。

「そろそろ、年貢の納め時だぜ。」

少年に声をかける男がいた。上条当麻である。

「何のことですか？」

「しらばつくれるな。お前がメモリを使って妹を襲った無能力者と
やつらの母校を襲っているんだろ。」

田山はしばらく無言だったが、大きく目を見開くと

「うるせえ！！復讐して何が悪い！！それにあんなクズが通ってい
た学校なんて消えればいいんだよ！！」

そついうと懷からガイアメモリを取り出し腕に挿入した。

『Beast！！』

ビーストドーパントに変身する。

「消えればいい？ふざけんな！！無能力者全員があんなクズのわけ
ねえだろ！！」

上条はそう叫ぶと懷からUG《Up grade》ロストドライバ

ーを取り出し腰に装着した。

「お前のふざけた幻想、この俺がぶち壊す！！変身！！」

そう言うとジョーカーメモリをUGロストドライバーに差し込む。

『Up Grade JOKER！！』

暴風が吹き荒れ、上条が漆黒の戦士仮面ライダージョーカーに変身し、ビーストドーパントと対峙する。

先にビーストドーパントが動き出す。巨大な爪で切りつけていく。校舎に。児童が逃げ惑う。

「させるか！！」

ジョーカーはビーストドーパントを殴りつける。

「グアウツ！！」

ビーストドーパントはジョーカーを切りつけようとするが簡単にかわされる。ジョーカーはビーストドーパントの攻撃をかわしては隙をつく。だんだんフラフラになっていくビーストドーパント。

「さあて、そろそろ決めるか。」

そう呟くとジョーカーメモリをマキシマムスロットに差し込む。

「JOKER！！Maximum Drive！！」

「ライダーキック」

ジョーカーはそう呟くと紫色のエネルギーをまとうと強烈な跳び蹴りをくらわした。

「グウアアアアアアア！！！！！！！！」

ビーストドーパントは断末魔をあげ爆発し、人間の姿に戻った。

その日の夜、上条探偵事務所の寝室にあるダブルベッドで二人の男女が寝ていた。男は上条、女は美琴である。いや、正確に言えば美琴はおきていた。

「まったく、また無茶しちゃって。でも、あの時私を頼ってくれてありがとね。」

美琴はそう言うと上条の胸に顔をうずめた。

Jの記憶／学園都市の仮面ライダー（後書き）

The next episode is

粘着性の糸に絡まった死体

そして、上条と話す謎の男『本郷猛』

Coming soon maybe . . .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4371v/>

とある破壊者の切り札

2011年10月9日13時03分発行